

2020年

4月7日^{〔火〕}～
7月5日^{〔日〕}

午前10時～午後6時(午後5時30分まで受付)

休館日 月曜日(※ただし5月4日は開館)、5月7日(木)

新潟市會津八一記念館

〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1 メディアシップ5階

TEL.025-282-7612 <https://aizuyaichi.or.jp>

観覧料 一般500円、大学生300円、高校生200円、小・中学生100円

※団体20名以上2割引、土日祝日は小・中学生無料

主催 新潟市會津八一記念館 | 共催 新潟日報社 | 後援 BSN新潟放送

協力企業 浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、高橋酒造

〔作品解説会〕第2、4日曜日、午前11時、当館展示室にて(企画展入場券が必要です)

〈會津八一記念館〉開館45周年記念

おりたてば
ふるさとがあった

心の旅



おりたてば
ふるさとがあった
あふれ
は、その
すそふき
かへす
あふれ
のほま

會

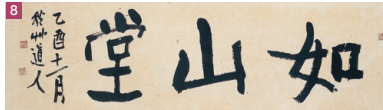
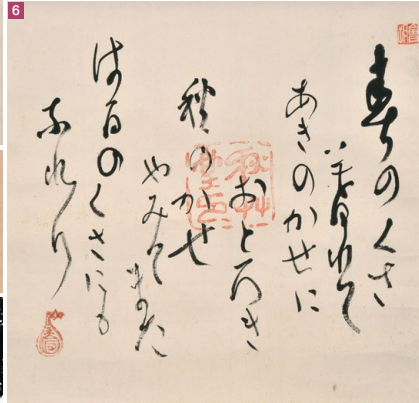
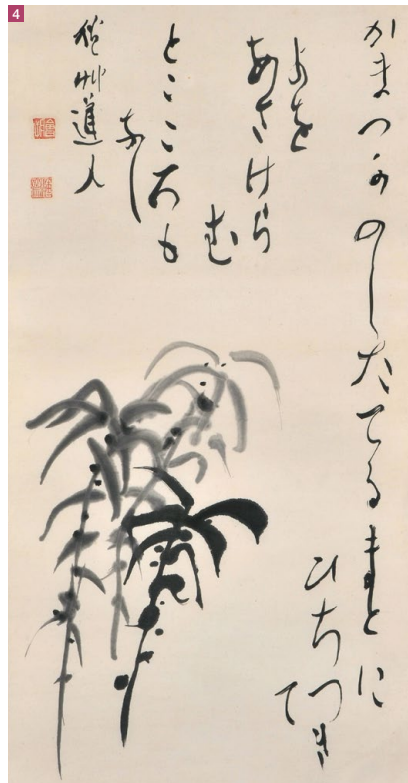
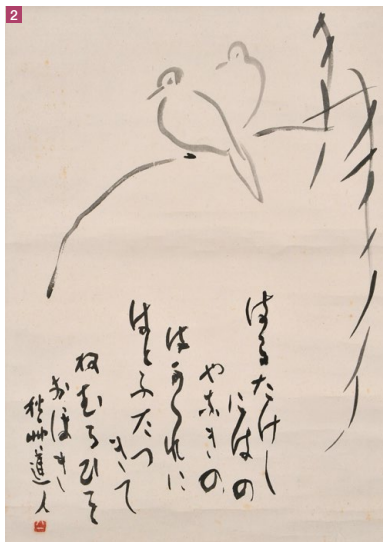
津八一は、昭和20（1945）年4月、東京の自宅が空襲で

全焼し、傘杖一本で郷里新潟に疎開しました。その後、郷土の文化振興を心に決めた八一は、夕刊新潟社長となり、この地に留まることを選択します。そして、現在の北方文化博物館新潟分館の洋館に居を構え、数々の書作品や、自らの学芸の集大成となる『自註鹿鳴集』などを世に送り出しました。晩年を過ごしたことで、八一の業績は広く故郷の市民にも理解され、顕彰される契機となったのです。

戦後の八一は、情熱的に制作に取り組む一方で、たびたび街に出て散歩を楽しむ、近隣の仲の良い人々と交流する日々を過ごしていました。八一は、みだりに書や短歌を欲する市民に対しては、大変厳しい態度を示したといえます。しかし、自身の芸術を理解し、敬意を表する市民に対しては懐を開いて、談議に花を咲かせたそうです。

本展では、八一が晩年を過ごした新潟市内にゆかりのある作品資料を中心に、県内外各地で詠んだ短歌の直筆資料や歌碑の拓本などを展示します。

また、本年は八一が歌人としての評価を確立した歌集『鹿鳴集』が昭和15（1940）年に発刊されてから80年になります。『鹿鳴集』に関する当館所蔵の資料もご紹介いたします。



- 1 会津八一書《喫茶去》(大阪屋蔵) 2 会津八一書《双鳩図・はるたけし》(大阪屋蔵) 3 北方文化博物館新潟分館前の会津八一(昭和20年代後半)
4 会津八一書《雁来紅図・かまづかの》(里仙蔵) 5 会津八一書《秋艸堂》(新潟市会津八一記念館蔵) 6 会津八一書《春のくさ・秋のかぜ》(新潟市会津八一記念館蔵)
7 北方文化博物館新潟分館内の歌碑を眺める会津八一(昭和30年) 8 会津八一書《如山堂》(新潟市会津八一記念館蔵) 9 会津八一書《童心》(新潟中央幼稚園蔵)

EVENT INFORMATION

開催イベント

文芸講演会 「会津八一 - 書の魅力 -」

〔講師〕 野中浩俊(会津八一記念館館長、新潟大学名誉教授) 〔日時〕 5月29日(金) 14時~15時30分(予定)
〔会場〕 新潟日報メディアシップ2階 日報ホール ※事情により延期する場合があります。
〔参加費〕 500円 〔定員〕 100名

●申し込み方法

※往復はがきにイベント名と、住所、氏名、電話番号を記入し、会津八一記念館までお送りください。定員に達し次第締め切ります。
※1通につき、1名様でのご応募といたします。

 **AIZU YAICHI**
AIZU YAICHI MEMORIAL MUSEUM
新潟市 会津八一記念館

〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報メディアシップ 5F

TEL.025-282-7612 / FAX.025-282-7614

当館へはメディアシップのエレベーターをお使いください。(階段はございません)

◎交通のご案内 新潟駅から バス約9分、タクシー約5分、徒歩約15分、新潟空港から タクシー約15分

◎駐車場のご案内 メディアシップ駐車場(24時間営業) 第1駐車場は220円、第2駐車場は200円(第1、第2共に30分 税込)

※周辺には、万代シティ駐車場、朱鷺メッセ駐車場などがございます。

